

令和4年度 研究紀要

各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実(1年次/2年計画)

－ 目標設定から学習評価までを見通して作成する単元シートの活用をとおして －



宮城県立石巻支援学校

〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字新立野410-1

TEL 0225-94-0202

目次

まえがき

《研究の概要》

I 研究主題, 副題	研究紀要- 1
II 主題設定の理由	研究紀要- 1
III 副題の「単元シート」について	研究紀要- 2
IV 研究目標	研究紀要- 3
V 研究の内容と方法	研究紀要- 3
VI 研究の実際	研究紀要- 5
VII 研究のまとめ	研究紀要- 16

研究同人

《資料》

- I 学部研究の単元シート(小学部・中学部・高等部)
- II 研究通信(1~22歩目)

はじめに

校長 田 中 晃

新しい学習指導要領も今年度の高等部の実施により全ての学部で完全実施となりました。この学習指導要領では、児童生徒が「何ができるようになるか」という個々の児童生徒の目標を明確に提示することや、新しい時代に向けて育成すべき力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」という3つの観点から整理することが求められています。各教科の指導段階をより具体的に細分化し、「何を・どこで・いつ」学習させるのかを具体的に整理することが示され、今後は、従来の「教科等を合わせた指導」で行われていた授業を教科の視点で整理し指導、評価していく必要があることが示されています。

本校ではこの学習指導要領の完全実施に向けて、これまで、校内研究を通して準備してまいりました。「各教科等の育成を目指す資質・能力」の視点でどのように授業を組み立てていくのかについて研究を進めてまいりました。具体的には、「単元シート」を作成し、TT間や学年間で活用しながら「各教科等の育成を目指す資質・能力」の視点を取り入れて授業実践を重ねました。そうした取り組みを通して、学習指導要領の理解とともに、特別支援教育の経験が長い教師は、これまでの実践を整理したり、経験の浅い教師は、授業の組み立て方を理解したりするなど多くの教師がその有効性を実感することができました。

今年度の研究は昨年度までの研究の成果を基礎として行いました。昨年度は、教師全員が「単元シート」を作成して授業実践に臨みました。その中で、「単元シート」の有効性は確認することができたものの、一つ一つの実践を十分に検討するには至らなかったという課題があげられました。そこで、今年度は、単元シートを活用し、「学習評価」にスポットを当て、PDCAサイクルを見える化させて授業の検証ができるような取り組みを進めました。授業実践を進めるに当たっては、単元シートを授業作りの共通ツールとして活用するために、昨年度の教師一人一実践から学部単位での授業実践としました。また、学部間の授業を互いに参観することにより、より一貫性のある指導の意識化を図ることができました。単元シートの作成には、教師の負担感がありました。研究部を中心として各学部から意見を吸い上げて細かな改善にも取り組みました。

コロナ禍の中、研究を進めるにあたり、研究主任をはじめ研究部の先生方の御尽力に心から敬意を表します。学部の研究や全校の研究の推進に向けて調整をすることには、大変な御苦労があったと察します。御苦労さまでした。今年度の取組が来年度にも生かされ、先生方の糧となり生き続けていくことを心から願っています。

I 研究主題・副題

各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実（1年次／2年計画）

－ 目標設定から学習評価までを見通して作成する単元シートの活用をとおして －

II 主題設定の理由

1 特別支援教育の動向

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の推進に伴い、連続性のある「多様な学びの場」における児童生徒の学びを確保していく観点から、特別支援学校においては、小・中・高等学校との教育課程の接続や、各教科等の指導内容の整理が求められている。

このような中、学習指導要領が改訂され、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。さらに、各教科に係る見方・考え方は、小学校等の教育と基本的に同じとし、知的障害のある児童生徒のための教育において、各教科等のどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示された。

2 学校の教育目標の具現化

本校は教育目標を「安全・安心な教育環境の中で、一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を、地域の教育資源なども有効に活用しながら行い、健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒を育成する。」と設定している。

平成28年12月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、これからの教員に求められる資質・能力の向上に向けて「学校教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえ、『何のために』『どのような改善をしようとしているのか』を教員間で共有しながら学校組織全体として指導力の向上を図っていけるようにすることが重要」と述べている。

校内研究において、題材や単元など内容や時間のまとまりの中で育成する資質・能力を明確にした授業改善と学習評価を行い、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指すことが、教育目標の具現化につながると考えた。さらに、学校組織全体として取り組むため、日々の授業実践を軸にした全員参加型の共同研究を目標に、校内研究を推進したいと考えた。

3 昨年度の研究

本研究は2年計画の1年次であり、昨年度は研究主題及び副題を「各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫－『単元シート』の作成をとおして－」と設定し、2年間の実践に取り組んだ。従来、本校で活用している指導計画及び反省を記載する資料に、単元で育成を目指す資質・能力を整理するための「単元シート」の様式を新たに作成し、教員一人一人が授業実践に活用することで、その有用性や改善点を検証することができた。

実践後に実施した教員対象の意識調査からは、教科等を合わせて指導する単元において、以前より各教科の目標や内容を意識していることが分かった。また、多くの教員が各教科等の育成を目指す資質・能力を明確にして、単元や題材を計画していることが分かった。さらに、意識調査の自由記述欄には、「単元シートを評価や指導の改善に生かしたい。」という意見があり、単元シートの作成が、授業作りや学習評価、振り返りを通して次の学習計画につながると意識の芽生えを感じることができた。

そこで今年度は、昨年度の取組を土台とし、各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実に向けて、教員一人一人が協働して授業実践に取り組む中で、目標設定から学習評価までを見通す単元シートの活用方法を工夫・改善する必要があると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 副題の「単元シート」について

単元シートは、題材や単元の指導に当たり、本校の教育課程と学習指導要領で示された資質・能力の関連を整理するために作成する資料である。以下のA～Gの7つの項目を記載する（図1）。

【単元シート】		指導の形態	学部 学年	時数	記入者(TT)																																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">単元の目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">A 単元の目標</td> </tr> </tbody> </table>			単元の目標		A 単元の目標		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">主な教科等の育成を目指す資質・能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">B 単元で育成を目指す資質・能力</td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> </tbody> </table>			主な教科等の育成を目指す資質・能力		知	B 単元で育成を目指す資質・能力	思	主																																																																	
単元の目標																																																																																
A 単元の目標																																																																																
主な教科等の育成を目指す資質・能力																																																																																
知	B 単元で育成を目指す資質・能力																																																																															
思																																																																																
主																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>時</th> <th>日付</th> <th>主な学習内容</th> <th>○手だて・留意点</th> <th>教科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">C 学習計画</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科	C 学習計画																														<table border="1"> <thead> <tr> <th>個</th> <th>教科</th> <th>本単元における個別の目標</th> <th>評価</th> <th>メモ欄(配慮・具体的な姿など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">D 本単元における 個別の目標及び評価</td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">E メモ欄</td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> <td rowspan="3"> </td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> </tbody> </table>			個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)	知	D 本単元における 個別の目標及び評価			E メモ欄	思	主	知					思	主	知					思	主	知					思	主	知					思	主
時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科																																																																												
C 学習計画																																																																																
個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)																																																																												
知	D 本単元における 個別の目標及び評価			E メモ欄																																																																												
思																																																																																
主																																																																																
知																																																																																
思																																																																																
主																																																																																
知																																																																																
思																																																																																
主																																																																																
知																																																																																
思																																																																																
主																																																																																
知																																																																																
思																																																																																
主																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">単元の反省</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">G 単元の反省</td> </tr> </tbody> </table>			単元の反省		G 単元の反省		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学習評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">F 学習評価</td> </tr> <tr> <td>思</td> </tr> <tr> <td>主</td> </tr> </tbody> </table>			学習評価		知	F 学習評価	思	主																																																																	
単元の反省																																																																																
G 単元の反省																																																																																
学習評価																																																																																
知	F 学習評価																																																																															
思																																																																																
主																																																																																

図1

A 単元の目標

教育課程を基に設定する。Bを踏まえて改善点があれば記載する。

B 単元で育成を目指す資質・能力

学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三観点で設定する。AとBの関連を矢印で整理する。なお、AとBの関連は、教育課程の改善を進めながら整理しているところである。

C 学習計画

教育課程の学習内容を基に、BやDなどを踏まえて、教員間で協働して作成する。

D 本単元における個別の目標及び評価

Bを踏まえ、児童生徒の当該段階¹に応じた目標を設定する。個別の指導計画との関連を図り、同時に評価も記入する。

E メモ欄

実践をしながら、目標達成に向けた手立てや児童生徒の具体的な様子などを記録する。

F 学習評価

BやDに基づいて、単元や題材において何が身に付いたか三観点で評価する。Gの根拠とする。

G 単元の反省

Fを踏まえ、学習内容・指導時数・指導形態などの視点から単元の指導を振り返る。必要に応じて、教育課程の改善につなげる。

1 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科は、児童生徒の障害の特性を考慮して、内容を学年別に区分せず、小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階で示している。

Ⅳ 研究目標

学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して授業実践と学習評価の充実を図る。

Ⅴ 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 授業研究（各学部）

- ・教員一人一人が「単元シート」を活用した授業実践に参加する。
- ・教員一人一人が一単位時間の流れを記載した「授業シート」の作成に参加し、学部内外の授業実践を共有する。
- ・各学部において、単元シートを活用した研究授業（事前検討会、事後検討会を含む）を行う。その際、指導の形態や児童生徒の実態等を踏まえ、より活用しやすい単元シートの形式を工夫する。

(2) 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）

- ・研究内容の理解や単元シートの活用に関する校内研修を行う。また、学部研究の取組をまとめてポスター発表を行い、全体で共有できるようにする。
- ・教員対象の意識調査（事前、事後）を行い、結果を分析・考察する。
- ・校務システムを活用して、授業実践の資料や計画を共有する。
- ・研究通信を発行し、校内研究に関する様々な情報や各学部の取組などを共有することで、教員一人一人が校内研究に参画する雰囲気を醸成する。
- ・職員用掲示板や研究資料保存用の本棚を整理・活用し、校内研究に関する情報を共有する。

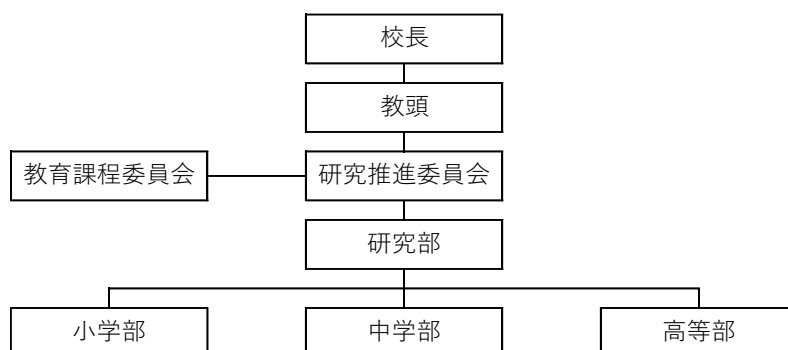
2 研究計画（1年次／2年計画）

月	校務部会	研修の日	活動内容	研究推進委員会
4	① 4日（月）		研究内容・計画の確認，全体会の準備	7日 研究内容・方法の確認
		① 19日（火）	第一回研究全体会	
	② 21日（木）		意識調査の準備，授業実践の計画作成	
5		② 10日（火）	校内研修「研究内容の詳細について」	
6	③ 1日（水）		校内研修の準備，研究授業の準備	
		③ 16日（木）	校内研修「授業作りワークショップ」	
	④ 29日（水）		校内研修の準備，研究授業の準備	
7		④※ 11日（月）	学部研究授業事前検討会（学部で日程設定）	
	⑤ 20日（水）		学部研究授業の運営，次年度の方向性確認	
8		⑤※ 30日（火）	学部研究授業事後検討会（学部で日程設定）	25日（木） 中間のまとめ
	⑥ 31日（水）		授業実践の実施状況確認	
9	⑦ 28日（水）		指導主事訪問準備	
10		⑥※ 12日（水）	指導主事訪問指導案検討会（学部）	
11	⑧ 1日（火）		指導主事訪問を受けて今後の運営を検討	
		⑦※ 21日（月）	指導主事訪問授業検討会（学部）	
	⑨ 30日（水）		意識調査の内容検討	
12	⑩ 14日（水）		取組の反省，意識調査実施，集計	
	⑪ 21日（水）		次年度の研究テーマの確認	
1	⑫ 25日（水）		研究全体会の準備	17日（火） まとめと次年度提案
2		⑧ 28日（火）	第二回研究全体会（含学部研究の共有）	
3	⑬ 10日（金）		研究紀要の作成・発送	

3 研究構想図



4 研究組織



VI 研究の実際

VI-I 授業研究（各学部）

1 全体の取組

単元シートを活用した実践は以下のとおりである。各種研修の研究授業で学習指導案を作成して指導を行った学年では、単元シートを作成していない場合もある。これは、単元シートに学習指導案の内容が簡潔に盛り込まれる形式になっているためである。

(1) 実践数

単元シートを活用した総実践数は14（小学部6，中学部2，高等部6）であった。実践した指導の形態や指導内容は、各教科等を合わせた指導（遊びの指導，生活単元学習）が9，教科別の指導が5であった。

(2) 実践の割合

単元の指導に当たる教員全員がいずれかの実践に共同で取り組んだ。実践率は100%である。

2 小学部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

各学年が単元シートを作成して研究授業に取り組んだ。実践した指導の形態や指導内容は、実践資料のとおり全てが各教科等を合わせた指導であった。

(2) 学部研究授業（第1学年）

① 研究授業の概要

男子4人，女子4人の計8人の学習集団であり，1人が肢体不自由等の障害を併せ有している。遊びの指導「感触あそびをしよう」の題材における実践である。題材の目標や育成を目指す資質・能力，学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P.1」）に示す。10月13日に，小題材「くしゅくしゅランドであそぼう」の研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート（資料編「実践資料P.2，3」）に示す。

② 事前検討会

研究部より研究の経過や授業参観の方法を確かめた上で，授業者が本題材や本時の学習について説明した。また，評価の工夫として単元シートのメモ欄に，授業の中で児童一人一人の目指す姿を具体的に書き込んでいることを伝えた。その後，質疑・応答を行い，遊びの指導のねらいについて確認し，遊びの指導を通した生活科や図画工作科についての資質・能力の捉え方を授業者と参観者で共有した。

③ 研究授業

キラキラ星の音楽で授業の始まりを知らせ，児童がマットの定位置に座ったところで，「感触あそびをしよう」のテーマソングを歌って授業を開始した。導入で児童が自由に新聞紙を破いたりちぎったりして十分に感触を味わった後に，扇風機や送風機で新聞紙を飛ばす遊びに誘いながら，一人一人が自分なりの遊びができるように支援した。新聞紙を両手で抱えて

撒き散らしたり、友達や教師に掛けたりする様子が見られた。学習の終末では、くるくる回る傘の中から新聞紙が舞い落ちるのを児童全員が喜んで見ていた。また空になった傘に積極的に新聞紙を入れて、傘を回してほしいと意思表示をしながら楽しさを教師に伝える児童もいた。遊びの終わりを知らせるオルゴールの曲が流れると、児童は教師と一緒に新聞紙を集める後片付けを始めた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.11」）

授業者からの自評を受けて、小学部全員で検討会を実施した。単元シートにおける個別の目標のメモ欄を活用して、目指す児童の姿を共有していたことが効果的であったという意見や、教員間の連携がスムーズだったことが挙げられた。検討された主な内容と参観した他学部の職員の意見等を下記に示す。

事後検討会の主な内容

視点1：学習評価につながる単元シートの工夫について（主に単元シートについて）
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元シートで児童に対する「こんな様子で遊んでほしい」という姿が共通理解されていて、それが授業の中での「支援の統一」に生かされている。 ・単元シートに記入されていた、本時における児童の目指す姿がまさに見られた。また、子供によっては一歩進んでいたり、遊びを広げていたり、単元シート作成時の教師の予想を上回った。 ・メモ欄に記入している児童の目指す姿を共有し、その様子が見られると側にいた教師が称賛の言葉として、他の教師に伝えることができていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のように遊びの指導では最終目標を記入できるが、生活単元学習のように、多種多様の学習内容となると、どのように単元シートに書き表すのか一考を要する。
視点2：その他（主に授業について）
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師も一緒に遊び、子供のよい点を伝え合うことが評価につながっていた。 ・子供の自発的な行動がいっぱいあり、それを拾って教師が全員で摸倣し、さらに他児へも広げられるような場面もあった。 ・片付けの頃には力尽きていた男の子もいて、しっかり遊んだ様子がうかがわれた。教師の工夫と一緒に遊んだ楽しさで目標が達成されていた。 ・題材を通して、小学部でこんなに丁寧に凶工や生活を経験している。中学部でもその経験を生かすような指導をしていきたい。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が入れる段ボール箱などに新聞紙をたくさん入れて設置するのも、学習展開につながるのではないか。 ・片付けも“遊び”にできるとよい。片付けの時間が長いと本来の遊びではなくなってしまい、飽きてしまった児童がいた。 ・児童がある程度片付けたら、残りは教師がしてもいいのでは。

(3) 学部実践のまとめ（成果○，課題▲）

単元シートを活用した実践や意識調査（資料編「研究通信No. 21, 22」）から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- ティームティーチングを行う教員間で協働的に単元シートを作成することで、単元の目標や個別の目標などを共有して指導に当たることができた。
- 単元シートを活用できるようになってきた。

- 修学旅行のように、色々な内容が入った単元の時間ごとの評価は、児童の具体的な姿を記録することにつながった。
- 授業で使った図式化した目標シートを基に単元シートを作成した。個別に作成した目標を表にし、1時間ごとに観点別に評価した。目標が達成できたことが分かったと同時に課題も明確になり、次の活動で重点的に指導することができた。
- （訪問学級）在籍児童1人バージョンの単元シートを作成した。通年で取り組む単元を大きく3つの学習活動に分け、それぞれ「知・思・主」の観点から目標を立てて取り組んだことで、ポイントを絞って評価することができた。実際の姿も記録として残すことができた。引き継ぎ資料としても活用したい。
- 学習評価をより意識して児童の個別の目標を立てることで、伸ばしたい力を具体的に考えて一人一人の力を伸ばすことができた。
- 同じ学部の取組はもちろんだが、他学部の授業の様子も参観することができ、指導しなければならないことなどの見通しが持てた。
- ▲◎、○、△の記号について、学年で共通した基準で評価できるといい。単元シートの評価を見ると、評価が共通ではなかったのかもしれないと気付くことができた。
- ▲前期に効果的な評価の工夫をしている学年の単元シートの紹介などがあつたなら、試してみることもできたのではないか。

3 中学部の取組

（1）単元シートを活用した実践

1学年と3学年が単元シートを活用した実践に取り組んだ。2学年は指導案を作成して主題に迫る実践に取り組んだ。実践した指導の形態は3学年全てが生活単元学習であった。

（2）学部研究授業（第3学年）

① 研究授業の概要

男子6人、女子4人、計10人の学習集団であり、1人が肢体不自由等の障害を併せ有している。生活単元学習「卒業制作をしよう」の単元における実践である。単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P.19,20」）に示す。12月2日に、研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート（資料編「実践資料P.21,22」）に示す。

② 事前検討会（資料編「研究通信No.8,13」）

初めに、授業者が単元の目標や育成を目指す主な資質・能力、本時の学習内容について説明した。その後、単元シートを用いて学習評価を充実させるために工夫した点について共有した。今回はシートの各欄を並べ替え、単元の目標と育成を目指す主な教科等の資質・能力との関連を整理するとともに、学習評価や単元の反省までの流れが意識できるようにした。また、本単元は、プログラミング教育のアンプラグドの実践であることにも触れた。質疑・応答では、主に単元の目標を達成するための工夫について話し合われた。

③ 研究授業

学習の導入では、一人一人のアイデアスケッチを紹介しながら、短時間で前時までの学習の振り返りと本時の学習内容の確認を行った。展開では、生徒は前時まで描いてきたアイデアスケッチと作品を見比べながら、材料の色を選んだり、用具や表現方法を吟味したりして、時計のフレームを制作していた。このように、生徒が描いたアイデアスケッチを活用することで、目標に向かって見通しを持ち、意欲的に学習に取り組むことができた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.18,19,20」）

授業者からの自評を受けて、ワークショップ型の検討会を実施した。ワークショップの二つの視点と、検討された主な内容を表2に示す。単元シートを活用して感じた課題について意

見が出された。また、二つの視点の他に、プログラミング的思考力の育成についても意見が交わされた。

表2 事後検討会の主な内容

<p>視点1：学習評価の充実について（主に単元シートについて）</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元シートの形式（縦書き）が観点別に評価や手立てをまとめたり、個人の段階を概観したりしやすい。 ・単元の評価につながりやすい。 ・個々を評価する上で目標に対して達成度がどうだったかも評価しやすい。 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す資質・能力として取り上げられている項目が、個別の目標に出てこないものがある。目標が偏ってしまうように感じる。「題材シート」として作成、活用するとすっきりする。 ・卒業への意識を持つという目標を達成するために、単元のまとめの時間だけでなく、ときどき触れるとよい。 ・単元シートの形式は、個別の目標などを把握するにはよいが、見やすさとしてはどうか。 ・アイデアスケッチを見て制作することが難しい生徒の場合、そのときのイメージで制作してもよいのでは。
<p>視点2：その他（主に授業について）</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチの利用が素晴らしいと思った。目標（イメージ）に向かって自分が行う（飾り）ことが見えていることも意欲や自分から取り組むことにつながっていると思った。 ・アイデアスケッチに、教師と相談したことや、やりとりしたことが書いてあり、生徒にとっては制作の手掛かりとして、教師は手立てや評価として役立つ。 ・一人一人の授業の様子から「進んで」「楽しく」「主体的に」制作活動に取り組んでいたことが伝わってきた。 ・いろいろな道具や技法など、これまでの経験が生きている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチに貼る素材は、実際のもの（ガラススタイル）の写真などにするとよいのでは。

(3) 学部実践のまとめ（成果○、課題▲）

単元シートを活用した実践や意識調査（資料編「研究通信No. 21, 22」）から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 実践をとおして、単元の目標と学習評価への意識がより高まった。
- 単元シートの形式を工夫することで、学習評価につながりやすくなった。
- 学部の垣根を越えて実践を参観し合うことで学びを得ることができた。
- ▲他学部の授業を参観する時間を十分確保し、来年も参観したい。
- ▲単元シートを活用することに効果は感じているが、作成することに負担を感じるため、よりシンプルに作成できるような工夫をしたい。
- ▲今後も学習評価についての研修する機会が必要である。

4 高等部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

各学年1実践とし、それぞれの単元シートに高等部教員全員が共同して取り組んだ。

各学年の実践内容は次の通りである。なお、3学年の実践授業を学部研究授業とし、全学部に公開した。

1 学年：音楽「いろいろな音楽と楽器に触れよう」

2 学年：生活単元学習「旅行の計画を立てよう」

3 学年：保健体育「器械運動」

(2) 学部研究授業（第3学年）

① 研究授業の概要

保健体育の授業をA課程3人、B課程9人、C課程18人に分かれて行った。本校の高等部では進路希望別にA・B・Cの3つの教育課程に分かれており、生活介護等を希望する生徒はA課程、就労継続支援B型等を希望する生徒はB課程、一般就労または進学等を希望する生徒はC課程に所属している。単元の目標や、育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P37, 38」）に示す。A課程の学習内容は、体力の維持・増進のため適切・適度な歩行運動等に取り組んだり、いろいろな体の動きを体験できるようレクリエーション活動に取り組んだりする。B課程は跳び箱運動に、C課程はマット運動にそれぞれ取り組む。学習の中で、器械や器具を安全に使用することや、運動することによっての喜びや達成感が感じられるように支援する。

② 事前検討会

[単元シートの使い方について]

単元シートの効果的な使い方について、高等部全体で確認したり意見交換をしたりして理解を深めた。学年ごとのグループに分かれて、当該学年にある実際の授業を取り上げて話し合いを行い、まとめた意見を発表し合った。「学習集団が多い授業では、段階が一緒の生徒と個人目標を共通にしてはどうだろうか。」「個別の手立てを記入する欄もほしい。」「評価は記述で書いた方が良いのではないか。」「メモ欄の枠を増やしたほうが良い。」などと、効果的に活用するための意見が多く交わされた。

[実践授業について]

単元の目標や育成を目指す資質・能力について確かめた。また育成を目指す資質・能力について、個別の実態に迫る具体的な目標設定をそれぞれに行うことができた。単元シートに一覧にして記入することで、共通理解を図ることもできた。特に人数の多いC課程のマット運動に関しては、効果的な支援を目指し、獲得技術や技の習熟度別にグルーピングすることで有効な支援の手立てについて具体的に共有することができた。

③ 研究授業

[A課程]

当日は欠席もあり生徒2人での活動になった。自立活動の目標と関連させ、レクリエーション要素を盛り込んだボウリングを行った。学習の積み重ねで、授業の流れをよく理解しており、落ち着いて活動に取り組んだ。教師の言葉掛けに応じて、ボウリングの活動を楽しむとともに、ねらいである椅子に座る、立つ、道具を持って移動するなどの基礎的な動作を繰り返す行うことができ、体力の維持・増進につながる学習活動ができた。

[B課程]

跳び箱運動に取り組む。ウォーミングアップでは慣れ親しんだスキップやサイドステップなどの準備運動に加え、障害物を跳んだり、バーをくぐったりするなど、運動の経験を広げられるようにした。主活動として、跳び箱の上を「歩く」「またぐ」「乗る」という方法で移動する学習を行った。その際、跳び箱を越えるときの恐怖心を緩和できるよう、教師が補助

したり、そばで言葉掛けを行ったりして、少しずつ支援を減らすようにした。学習のまとめでは、取り組んだ動作の中から特に練習したい動作を選択する場面を設定することで、主体的に取り組む姿が見られた。また、主活動を行う際に、器械・器具の準備や片付けを行うことで道具に親しみ安全に使用することにつながった。

[C課程]

マット運動に取り組む。マットの準備、片付けを自分たちで行い、安全に使用するためにはマットの耳をしまわなければならないことも理解して、活動に取り組むことができた。ウォーミングアップでは補助運動を取り入れ、回転がスムーズにできるように体育座りの状態から前後に揺れる「ゆりかご」を練習したり、踏ん張る足や体を支える部位を意識できるように「アザラシ歩き」「犬歩き」など動物に例えた動きを導入したりし、運動のイメージを持って主活動につなげることができた。主活動では、事前にグルーピングした習熟度別の学習集団に分かれて、前転や開脚前転に取り組んだ。教師が技のポイントを師範しながら説明することや、友達が技に取り組んでいる様子を参考にしよう言葉掛けすることで、技の習得に向けて友達と相談したり、体の使い方を工夫したりと主体的に取り組むことができた。また、取り組んでいる様子を教師がタブレット端末で個別に撮影し、その場で振り返ることができるようにした。技の完成形や自分の課題を視覚的に確認することができ、意欲的に取り組むことができた。

④ 事後検討会

A・B・C課程ごとに授業の様子の記録や評価を個別の欄に記入し、共有した。単元シートを作成したことで「教員全員が生徒の個別の目標を事前に把握し手立てを明確にできたことで、学習評価をイメージしながら支援することができた。」「事前に3観点の目標を個別に設定するので、運動能力のだけでなく授業に向かう態度についても、視点を持って支援することができた。」などと学習評価を意識した意見が挙げられた。

(3) 学部実践のまとめ(成果○、課題▲)

単元シートを活用した実践の成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 単元シートを活用することで、学習指導要領や教育課程を確認しながら各教科等の育成を目指す資質・能力と単元の関連を踏まえた計画を考えることができ、個別の目標を設定することができた。
- 個別の目標を設定し共有することで、教科等の育成を目指す資質・能力の具体的な段階が明確になり、適切な学習集団(課程ごとの学習、課程内での小グルーピング化など)を構成することができた。
- 単元シートを作成するときに、生徒一人一人の目標や手立てを考え、授業者で共有することで、学習評価のイメージを持ちながら指導、支援を行うことができた。
- ▲単元シートは効果的な手段ではあるが、作成にかなり時間がかかる。特にC課程のような学習集団が大きい形態では、記入や記録が膨大になる。
- ▲単元シートの個別の目標や評価と個別の指導計画をもっと関連させて考えることで効率化を図りたい。

VI-Ⅱ 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）

1 校内研修

- (1) 今年度の取組について（研修① 5月11日 第1回研究全体会）
 昨年度の成果と課題を確認し、教員一人一人が授業実践に参加することについて確認した。
 （資料編「研究通信 1歩目」）
- (2) 学習評価の捉え（研修② 6月16日）
 単元シートの効果的な活用に向けて、学習指導要領に示された学習評価に関する内容を確認した。
- (3) 授業実践に向けた単元の選定（研修③ 7月11日）
 授業実践に取り組むグループごとに、実践する教科や単元の検討を行った。
 （資料編「研究通信 4歩目」）
- (4) 単元シートの工夫・改善（研修④ 7月14日）
 研修③で選定した単元の授業の形態や児童生徒の実態等を踏まえ、単元シートをより有効に使うための方法について話し合った。実際の授業を想定し、具体的に意見交換することができた。
 （資料編「研究通信 4, 5, 6歩目」）
- (5) 研究授業の事前検討会（研修⑤ 8月30日, 研修⑥ 10月12日, 研修⑦ 11月21日）
- (6) 研究のまとめと共有（研修⑧ 2月28日 第2回研究全体会）
 各学部の研究授業や単元シートを活用した実践、意識調査の結果などを整理したスライドを作成し、他の学部に発表することで学部研究について全体で共有した（図2～4）。また、今年度の研究のまとめと次年度の研究の方向性について確認した。



図2 小学部の発表



図3 中学部の発表



図4 高等部の発表

2 意識調査（単元の指導に当たる教員対象）

(1) 目的

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導に関する教員の意識を調査・分析することで、学習評価を行う際の単元シートの有用性の検証や校内研究の推進のための参考とする。

(2) 実施期間と対象者数

事前調査（n=69）：5月16日～5月24日，対象者69人，回収率100%

（資料編「研究通信No.9」）

事後調査（n=75）：12月7日～12月16日，対象者77人，回収率97%

（資料編「研究通信No.21, 22」）

(3) 設問ごとの調査結果と考察（資料編「意識調査用紙（事後調査）」）

事前及び事後調査の結果の比較と考察を以下に示す。

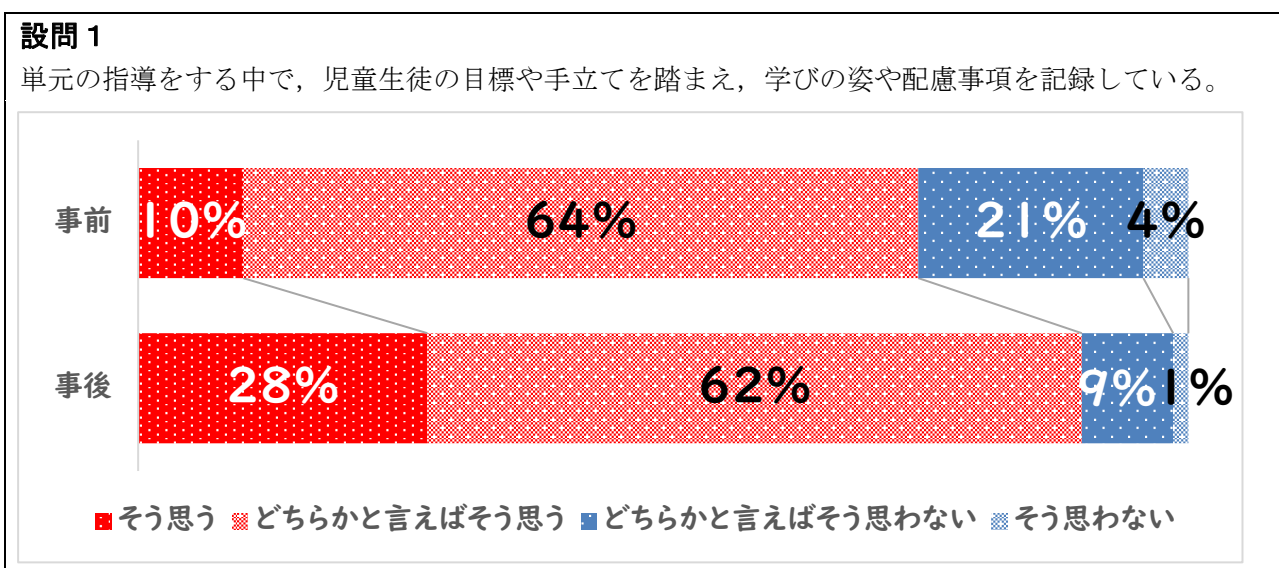


図6 設問1：事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答が増え、全体の9割を占めた。自由記述欄には「単元や授業の目標、評価を意識することが今年度の研究を通して向上したように思う。」「単元シートを用いて個別目標の評価を丁寧に行うことで、単元途中での個別目標の見直しや、教員間での共有を行うことができた。また、学習を重ねて行く中での児童の姿の変化も感じることもできた。」などの記述があった。これらのことから、単元の指導をする中で、児童生徒の目標や手立てを踏まえ、学びの姿や配慮事項を記録している教員が増えたと言える。

一方で、「日々時間に追われ、授業の準備もままならない中、実際に単元シートを活用して授業をしなければいけないとなると、かなりの負担を感じるため、可能な限りシンプルなものにしてほしい。」「研修の日を他の検討会などに振り替えたことがあったので、そこを学習評価の日として単元シートの反省記入の時間などに充ててもいいのではないかと感じた。」など、単元シートを作成することへの負担感や単元シートに反省を記入するための時間の確保についての意見が見られた。単元シートの様式の見直しを含めた、より効率的・効果的な活用方法を検討していく必要があると言える。

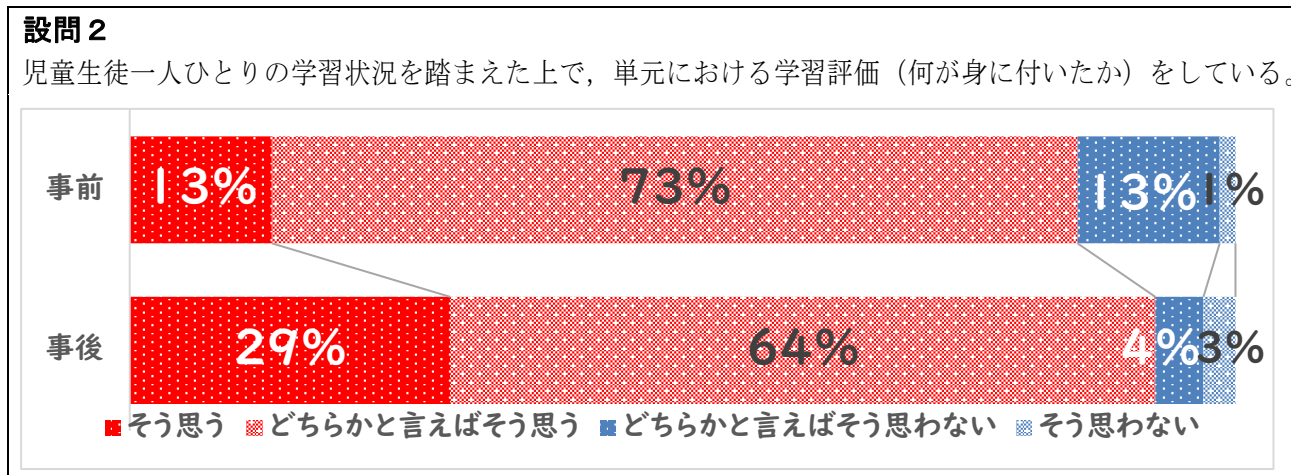


図7 設問2：事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答が増加し、全体の9割以上を占めた。自由記述欄には「教員間で共有して主担当以外も指導することができた。」「改めて評価と反省にフォーカスした研究主題を設定されたことにより、やりっぱなしの授業にならず、教科としての取り組みと評価を意識することができた。」などの記述があった。これらのことから、児童生徒一人一人の学習状況を踏まえた上で、単元における学習評価（何が身に付いたか）をする意識が高まったと言える。

一方で、「もう少し、学習評価について学年で話し合う時間が取れたらよかった。今年度、実践して良い評価の方法をみんなで取り組めると良いと思う。」「今年度は、評価についての研究だったと思うが、研究授業では、授業の仕方について検討することがほとんどだった。評価については、いつ検討するのかと思った。」など、学習評価の方法の理解が不十分であったことに関する意見が見られた。研修の日や研究通信などにより、学習評価の方法を理解を深めたり、共有したりしていくことが求められていると考えられる。

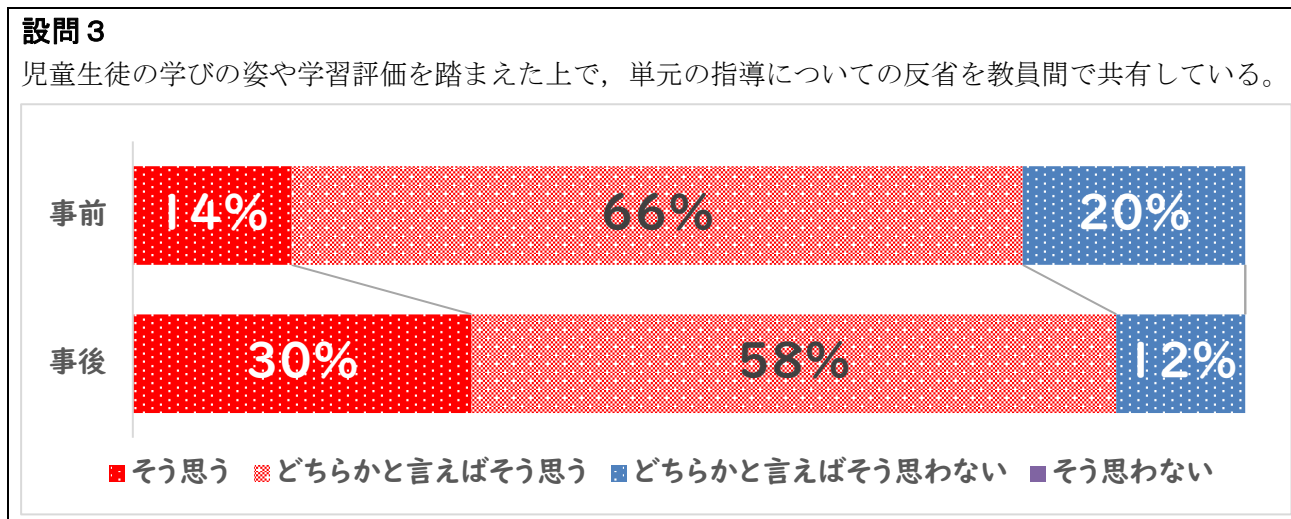


図8 設問3：事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答が増え、「そう思わない」の回答は見られなかった。自由記述欄には「学年では、学習前後に単元シートで目標の確認や評価、反省を共有し、活用することができた。」「単元シートの使用により学部や学年を越えたつながり持つことができたと思います。」といった記述があった。これらのことから、児童生徒の学びの姿や学習評価を踏まえた上で、単元の指導についての反省を教員間で共有する意識が高まったと言える。

設問 4

授業を行う上で不安を感じている内容があれば選択肢を✓（チェック）してください。

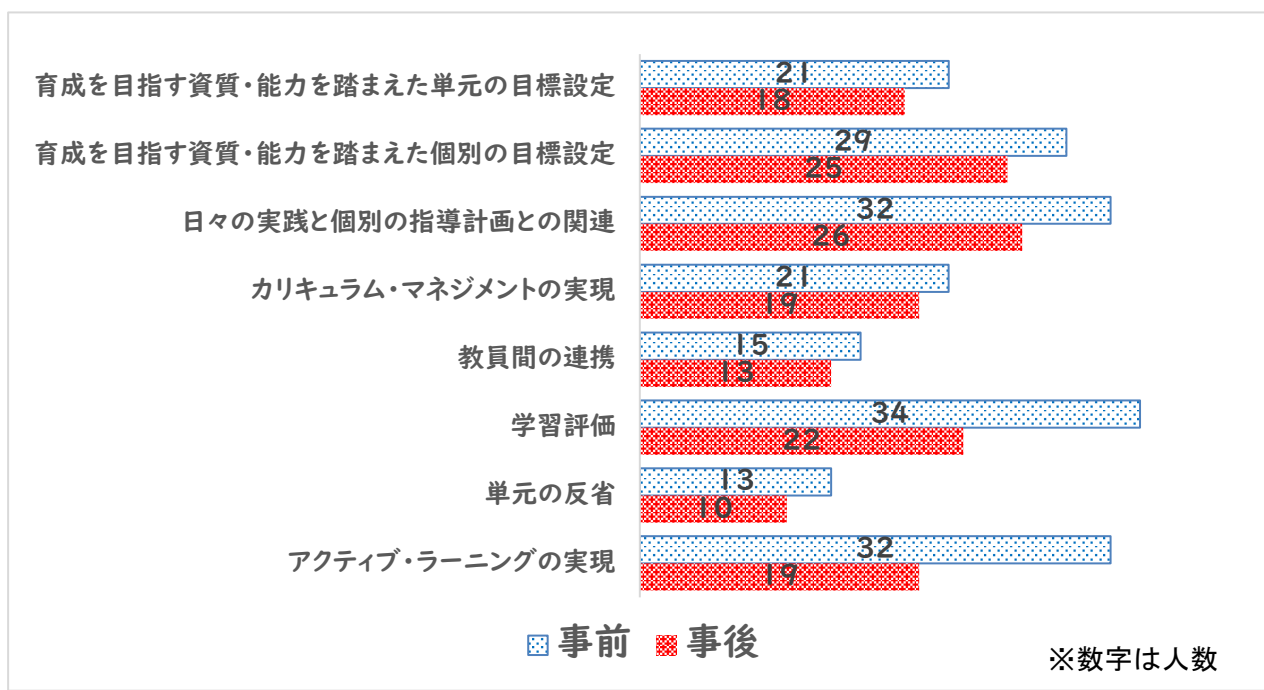


図9 設問4:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、全ての項目で不安を感じている回答が減った。なお、回答人数は平準化している。特に、「学習評価」と「アクティブ・ラーニングの実現」については、前期よりも後期の回答数が大きく下回った。自由記述欄には「学習評価をより意識して児童の個別の目標を立てることで、伸ばしたい力を具体的に考えて一人一人の力を伸ばすことができた。」「授業を行う上での不安や心配がなく実践することができた。」といった記述があった。これらのことから、単元シートを活用した授業を行うことにより、授業への不安感を減らすことができたとと言える。

(4) 意識調査の考察

設問1から設問4の結果を見ると、事前調査と事後調査を比較すると全ての設問について肯定的な回答が大きく増えており、学習評価への不安感も少なくなっていることが分かった。単元シートを活用することで、学習評価や反省を意識した授業作りへの理解が深まったことが要因として考えられる。これらのことから、学習評価を充実させる上で、単元シートは効果的なツールであると言える。

一方で、学習評価の方法に関する理解の不十分さや単元シート作成の負担を感じている教員がいることも分かった。今後は、事後検討会や反省の共有までをサポートする手立てを講じることで、単元シートの効果的・効率的な活用方法を検討していくことが重要であると考えられる。

また、自由記述欄には学部間の参観授業についての記述が多数見られた。参観者数を増やすために、日程の調整や録画したビデオの配信を視聴するなど、今年度の反省を生かしていきたい。

3 授業実践の資料や計画の共有

教員が実践にあたり作成した単元シートや授業シートを校務システムを活用して共有した。また、研究授業の様子や参観した教員の感想等を研究通信にまとめて共有することで、全員が実践に取り組む雰囲気を醸成するよう努めた。また、参観体制の調整が難しい場合も考慮して、研究授業の様子をライブで視聴できるモニターを校内各所に設置したり、録画した映像を視聴する時間を設けたりして、多くの教員が実践を共有することができるよう工夫した。

意識調査には、「他の先生方の授業をたくさん見ることができて勉強になった。」「学部の垣根を越えた参観することができ、とても新鮮でした。」などの記述があり、互いに授業を参観し意見交換できたことを好意的に評価する意見が多く寄せられた。

4 環境の整備

職員用掲示板（図5）や資料コーナー（図6）の整備を行い、教員が校内研究の取組に触れる機会を多く持てるようにした。

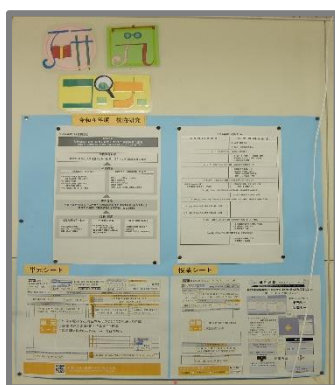


図5 研究構想図や研究通信などを共有



図6 書籍や公開研究会の案内などを閲覧できるようにした資料コーナー

5 研究通信の発行

単元シートを活用した実践の共有を目的に研究通信を作成した。校務支援システムを活用し、研究授業の様子に研究部員がナレーションを録音したデータにアクセスするための研究通信も発行した。意識調査には「研究通信によって、授業実践を共有できたのが良いと思った。」という意見があった。発行した研究通信の主な内容は以下のとおりである。なお、本研究紀要の資料として、研究通信を添付する。

No.	発行日	主な内容	No.	発行日	主な内容
1	5月13日	第1回 研究全体会の振返り	13	11月30日	中3事前検討会
2	6月13日	研修②のお知らせ	14	12月7日	高3全校研究授業の共有
3	6月20日	研修②の振返り	15	12月13日	高1研究授業の共有
4	7月8日	研修③④のお知らせ	16	12月14日	高2研究授業の共有
5	7月20日	研修④のまとめ（高等部）	17	12月27日	小6研究授業のハイライト案内
6	7月22日	研修④のまとめ（小学部）	18	12月28日	中3事後検討会
7	7月25日	中1研究授業の共有	19	1月6日	中3研究授業の共有
8	7月26日	研修④のまとめ（中学部）	20	1月10日	中3研究授業の共有
9	8月4日	意識調査の結果報告	21	1月18日	意識調査の結果報告①
10	9月12日	指導主事訪問の振り返り	22	1月18日	意識調査の結果報告②
11	10月25日	小1全校研究授業の共有	23		
12	10月28日	中1研究授業のハイライト案内	24		

Ⅶ 研究のまとめ

校内研究の主な成果と課題は以下のとおりである。

1 成果

- (1) 単元や題材の指導に当たる全ての教員が単元シートを活用した授業実践に参加することができた。また、実践した上で感じた単元シートの効果や疑問点などを、研究授業の検討会及び研究通信やポスター発表などとおして共有することができた。
- (2) 校務システムを活用して日々の実践を共有したり、研究通信や職員掲示板を活用して情報を共有したりしたことで、日常的に研究テーマを意識して実践する機会が増え、研究の推進につながった。
- (3) 多くの教員が単元シートの効果を感じており、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて授業実践を行い、学習評価までをしっかりと記録・分析する意識が高まったことが、意識調査などから分かった。また、単元シートの形式を一部変更することでより活用しやすくなり、研究授業のみならず日常的に単元シートを活用して授業づくりや評価の累積を行うことにつながり、学校の教育目標の具現化に向けて校内研究を進めることができた。
- (4) 研究授業の参観体制を調整するだけでなく、モニターを設置して離れた場所からでも授業の様子を視聴することができるようにしたり、録画した映像を視聴する時間を設けたりしたことで、授業実践に対する関心が高まり、全員で研究に参加する意識の高揚につながった。

2 課題

- (1) 単元シートを作成することに負担を感じている教員がいることが課題である。負担を軽減する単元シートの様式や活用方法をさらに検討したい。また、教育課程の改善や個別の指導計画の活用など、単元シートの汎用性を高める方法を検討したい。
- (2) 各教科等の育成を目指す資質・能力について理解を深めていくことが課題である。研究授業で検討することで育成を目指す資質・能力や、学習評価の方法について理解を深めることができた一方で、日々の実践において、資質・能力の捉え方を十分に共有できないことがあった。単元シートをより効果的に活用することで、学習指導要領で示された資質・能力と、その評価方法についての理解を深めていきたい。
- (3) 全ての教員が実践することができた一方で、研究授業が重なる時期があった。年間指導計画に沿って授業実践の計画を早い時期に立案し、見直しを持って進めていきたい。

【主な参考文献】

[1]宮城県立石巻支援学校：「令和3年度研究紀要」	2021
[2]文部科学省：「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」	2017
[3]文部科学省：「文部科学省：特別支援学校高等部学習指導要領」	2019
[4]中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」	2018

令和4年度 研究同人

校長 田中 晃 教頭 大山直樹 教頭 遠藤義幸

寺門政彦 瀬川由美子 須田幸子 及川美和 青山のり子
高橋憂季実 豊島花恵 齋藤汐里

小学部（学級順）

三浦喜代 片桐明子 高橋敦子 黒沼千里 齋藤裕美
○男澤真理子 漢人みち 江川静花 佐藤まちこ 平塚志乃
戸田祥子 佐藤舞 及川健之 小田島葉子 鈴木裕一
二宮舞 指方珠美 服部あゆみ 千葉香子 坂下真也
菊地佑太 武川雅子 ○佐々木耕太 廣島千波 遠藤仁子
亀谷征功

中学部（学級順）

佐久間理恵 玉川幸毅 色川信子 ○太田周吾 千葉佳子
菅原俊浩 万城目瑞生 菅野真資 阿部克志 植松智穂
小山内みさ 齋藤光 門馬広大 木村俊史 ○後藤綾子
桂谷峯

高等部（学級順）

小岩郁子 中鉢佳子 河野智恵子 中川一郎 樋口望美
西村和佳子 高橋正俊 阿部三津子 丹羽節子 菅原昌幸
佐々木由里 新家優 早坂和佳 武山雅俊 高橋瑠衣
◎高清水芙美枝 遊佐綾子 塩谷祥代 齋藤慎吾 今野修
及川久美子 伊藤貴之 伊藤聡子 大和慶宣 木村雅江
○富士原真悟 柳田敏之 佐藤翔樹 阿部ひろみ 齋藤佳子
千田健二 長谷川史奈 岡好和 村上恵理 千葉順子
佐々木貴史 山口裕康